

2017年9月1日

富山県知事 石井 隆一 様

みんなで富山県教育を考える会  
代 表 佐々木 悟富山県平和運動センター  
議 長 山 崎 彰I 女性会議富山県本部  
議 長 辻 井 秀 子

## 県立高校の後期再編に関する申し入れ

県政推進に向けた連日のご奮闘に敬意を表します。

今、議論が進められている県立高校の後期再編に関して、県教委の説明などから「競争教育に拍車をかけ、教育に『成果』ばかりを求めるものではないか」など、私たちは、大きな懸念を抱かざるを得ません。したがって、再編ありきの議論ではなく、富山の高等教育がどうあるべきか今一度立ち止まって考えるべきです。こうした観点から、下記のとおり申し入れます。

## 記

1. 県立高校の後期再編に関して、再編ありきの議論ではなく、地域住民・保護者・生徒・教職員などの意見を十分聞き、一方的な再編とならないようにすること。
2. 県教委は意見交換会において、「高校再編は急速に進む少子化に対応して教育環境を整えるため」と説明されていますが、最も大切なことは、生徒の教育を受ける権利の保障です。しかし、急速に進む「働き方改革」で、多くの親が派遣労働者などの非正規労働者であり、子どもの貧困化が進んでいます。したがって、交通費の負担増や、地理的条件で私学へ進学せざるを得ない状況も十分配慮すること。
3. また、再編理由として「切磋琢磨論」や「選択科目の開設数・部活動の選択範囲の確保」などと説明されていますが、こうした理由による大規模校の維持には次のとおり疑問があり、再検討すること。
  - (1) そもそも「切磋琢磨」が小規模校では不可能という根拠は薄いだけでなく、小規模校ほど深い人間関係ができ、人格的な成長が図られる。
  - (2) 選択教科の開設は、各学校が特色のある教育課程を編成するなかで決めることであり、教育委員会はそれに対して、教員配置等を行う責任がある。
  - (3) 部活動の種目の維持は、生徒・保護者・地域の意見をもとに計画されるものであり、本来、学校教育に優先されるものではない。

以 上